2022 年度 人文学類授業評価アンケートについて

人文学類 FD 委員会

人文学類 FD 委員会では、2022 年度に実施された授業評価アンケートの結果を公開いたしますとともに、問題点や課題を明らかにすることで、人文学類における今後の授業改善に向けて役立てていただきたいと思います。

以下の表に記した数値は、総回答者による各選択肢の回答比率を示しています（合計値 100%、まるめの誤差のため合計が 100%にならない場合あり）。また、「平均得点」は各解答欄の選択肢の番号（1～10）を評価点とみなして計算した場合の平均を示しています。

なお、今年度から質問項目や評点の表記法が一新されたため、前年度との比較を行うことは今回は断念したことを申し添えておきます。

対象学期：2022 年度（第 1Q～第 4 Q）
対象科目数：人文学類専門科目 123 科目
総受講者数：6291 名
回答者数：5038～5396 名（設問により回答数に変動あり。回答率 80～85%）
昨年度（回答率 12%）から大幅に向上（成績開示と紐付けしたためと思われる）。

授業内容の適切性

Q1 この授業は，あらかじめシラバスに示された学修目標や授業計画に沿って行われましたか？

1まるで違った（-5~-4）	2 (-4~-3)	3 (-3~-2)	4 (-2~-1)	5 (-1~0)	6（0~1）	7（1~2）	8. (2~3)	9. (3~4)	10. 全くその通り (4~5)
0.4	0.3	0.4	0.8	1.1	15.5	5.1	9.5	16	50.8

平均得点　8.67

最高評価の（10）が 5 割を越え、高評価の目安となる（8）以上で算定すると、7 割 5 分以上が高い評価をしていることが分かる。一方、完全否定ではないにせよ、肯定度の低い層も 2 割程度いることにも注意しておきたい。授業の内容と学修目標が合致していることを意識的に確認する機会を授業中に設けることなど、多少の工夫の余地はありそうである。

担当教員の説明の仕方

Q2　この授業における教員の説明の仕方は，分かりやすいものでしたか？

1まるで違った（-5~-4）	2 （-4~-3）	3 （-3~-2）	4 （-2~-1）	5 （-1~0）	6（0~1）	7（1~2）	8.　（2~3）	9.　（3~4）	10. 全くその通り（4~5）
0.6	0.3	0.6	1.3	1.1	14.7	5.3	9.9	15.7	50.6

平均得点 8.61

Q1 と同様、最高評価の（10）が 5 割を越え、高評価の目安となる（8）以上は全体の 7 割 5 分以上を占めているため、おおむね高い評価が得られていると判断することができるだろう。他方、ここでも判断保留気味の層が 2 割程度、存在しているのは気になるところである。また、マイナス評価も 4 %弱でている。講義内容のレヴェルを落とすことなく、より多くの受講者の理解度が高められるような授業を行うことは容易なことではないが、今後もたゆまぬ努力が求められるところであろう。

授業外学修時間

Q3　この授業について，授業外学修（授業の予習・復習，レポート作成，試験勉強などを含む）をどれくらい行いましたか？

0時間	1時間	2時間	3時間	4時間	5時間	6時間	7時間	8時間	9時間以上
5.3	55.5	19	6	1.8	2.1	0.7	0.6	0.3	8.6

全体の 5 割強が 1 時間、およそ 2 割が 2 時間と回答しており、おそらく、このあたりが現状での授業外の平均的な学修時間であるように思われる。準備に多くの時間を要する少人数の演習科目はアンケートの対象からほとんど除外されているため、ここでは総じて低めの数値が出る傾向にあるが、20 人に 1 人が対象科目に関してはまったく授業外学修をしていない、というのはさすがに問題であろう。なお、今回、平均値を算出していないのには理由がある。それは、長時間の学修を申告する例が相当数にのぼり、それをどう解釈するか判断が困難だったためである。具体的に実数で示すと「30 時間」が 145 名、「60 時間」が 59 名おり、「30 時間」以上は全部で 244 名（全体の 4.8%）を占めている。ちなみに回答可能な最大値である「99 時間」と回答している者も 8 名いた。設問では「総時間を平均し、授業 1 回あたりの時間に換算」するよう求めているのだが、そうした基準に照らしてこれらの数値はいささか過大であり、授業 1 回あたりではなく、当該の授業の全回分に要した時間を回答したのではないかという疑念は払拭できない。この点については今後、どのような推移が見られるか、注視していく必要があるだろう。

授業理解度

Q4　この授業の内容を，よく理解できましか？

1まるで違った（-5~-4）	2 (-4~-3)	3 (-3~-2)	4 (-2~-1)	5 (-1~0)	6（0~1）	7（1~2）	8.　(2~3)	9.　(3~4)	10. 全くその通り (4~5)
0.5	0.6	0.5	1.4	0.2	15.2	7	12.4	19.8	42.4

平均得点　8.51

最高評価の（10）が全体の 4 割、（８）以上で 7 割 5 分程度という評価は他の項目とほぼ同じであり、やや低めの評価がおよそ 2 割を占めるというのも他項目と共通するところである。授業の理解度が低いと感じた学生は、Q2 で教員の説明が十分に分からなかったと感じた層と重なり合っていることは想像に難くない。その意味では、教員の説明に消化不良を起こす学生の比率を減らすことが結局のところ、全体の理解度をアップさせることに直結すると言えそうである。

学修目標達成度

Q5　この授業であなたは，シラバスに記載された学修目標を達成できましたか？

1まるで違った（-5~-4）	2 (-4~-3)	3 (-3~-2)	4 (-2~-1)	5 (-1~0)	6（0~1）	7（1~2）	8.　(2~3)	9.　(3~4)	10. 全くその通り (4~5)
0.6	0.2	0.6	1	0.9	16.4	8.2	14.4	20.3	37.4

平均得点　8.39

最高評価の（10）が全体の 4 割を切り、（８）以上でも 72%程度と、他の項目と比べてやや低めの評点になっているが、概ね高評価の範囲内と言ってよい。他方、およそ 4 人に 1 人の学生が低めの評点であることについても気になるところであるが、この点については、各自の達成度を問う設問に対して、抑制的な自己評価を下しがちな学生心理が影響している可能性も考慮に入れるべきかもしれない。

授業満足度

Q6　この授業の内容は，満足できるものでしたか？。

1まるで違った（-5~-4）	2（-4~-3）	3（-3~-2）	4（-2~-1）	5（-1~0）	6（0~1）	7（1~2）	8.（2~3）	9.（3~4）	10. 全くその通り（4~5）
0.8	0.5	1.6	0.9	1	15.6	6.3	10.5	10.5	52.3

平均得点　8.52

最高評価の（10）が全体の 5 割を越え、受講者の半分以上が極めて高い評価を下していることは特筆されるべきであろう。他方、（８）以上という範囲内で見てみると、その割合は 7 割程度と他の項目の差は認められなくなる。ここからは、他の項目と比べ最高評価をつける者は 1 割程度、増大している一方で、相対的な低評価層は相変わらず 2 割程度、存在しているという構造が浮かび上がってくる。この 2 割の低評価層の満足度を上げる方策が今後の検討課題となるであろう。

＜まとめ＞

授業内容の適切性、担当教員の説明の仕方、授業満足度の 3 つの項目で最高評価の（10）が全体の 5 割を越えており、2 項目でも（10）が 4 割程度を占めており、人文学類の専門科目の授業は、おおむね満足のゆく成果を上げていると評価することができるだろう。その一方で、相対的に低めの評点を出す層も、各項目で 2 割程度、存在しており、今後はこうした層にいかに対応すべきかが課題となるであろう。受講するすべての学生が授業に積極的に取り組み、そこから各自が十分な成果を得ることが理想であることはいうまでもないが、講義内容の専門性が高まれば、それだけ、万人の興味を引くのは難しくなっていくことも容易に推察されるところであり、このあたりのバランスのとり方については今後も試行錯誤をしつつ探っていく余地はありそうである。